

第四十二回啄木祭短歌大会受賞者

啄木祭賞

43 生徒らの声のさやぎに送られて閑かに終わる母の納棺

伊藤英伸（一関市）

盛岡市長賞

70 老斑の浮きてさびしき母の手がにぎりし飯を夢に頬張る

折居路子（盛岡市）

岩手県歌人クラブ会長賞

180 日雇の今日を終へたる足袋底に現場の砂の熱れ残り

岩瀬 誠（群馬県）

岩手日報社賞

51 天井の高さの書架に手をのぼし春の光の歌集に出会う

深町一夫（秋田県）

朝日新聞社賞

52 おたまじゃくしぼわりと泡を吐くように小一の子の嘘のかわゆし

中里茉莉子（十和田市）

毎日新聞社賞

68 三鉄の復旧願ひ千羽鶴折りし少年社員となりぬ

加藤優子（仙台市）

読売新聞社賞

96 十五年の思いあふれて書き泥む「復興意識調査」を前に

三船武子（久慈市）

選者賞

稲垣 貞男選

11 白寿近し足腰つらき母なれど朝晩のお経欠かさず続く

小野寺洋一（奥州市）

小笠原和幸選

14 上野駅十五番線啄木の歌碑をやさしく読む声のする

野上 卓（東京都）

藤井 永子選

129 啄木の生れたる郷に住み慣れて卒寿越したる今を尊ぶ

上野和子（盛岡市）

八重嶋 勲選

158 春さむき空幾重にもつらなりてかりがねわたる波動のごとく

岡田紘子（盛岡市）

吉田 史子選

182 双眼鏡に鶴を数へる分校の一人の生徒の吐く息白し

藤林正則（札幌市）

高点歌賞

一位 10番 57点 風となり光りとなりて駆けてゆくあれは田の神稲穂のうねり

羽藤 堯（奥州市）

二位 68番 43点 三鉄の復旧願ひ千羽鶴折りし少年社員となりぬ

加藤優子（仙台市）

三位 9番 41点 交差点を黙して急ぐ人波に押されし母の細き手を引く

加藤哲章（福島市）

四位 6番 38点 遠洋の父が乗りたるまぐろ船満船帰港と有線で聞く

保坂みさ子（気仙沼市）

五位 52番 36点 おたまじゃくしぼわりと泡を吐くように小一の子の嘘のかわゆし

中里茉莉子（十和田市）

六位 75番 33点 濁音の多い言葉だ「だいじょうぶ」ほっこり包むぬくもりがある

小野寺正美（奥州市）

六位 180番 33点 日雇の今日を終へたる足袋底に現場の砂の熱れ残り

岩瀬 誠（群馬県）

八位 161番 32点 庭先の牡丹の芽吹き案じつつ母は手を振り施設にもどりぬ

小山悦子（陸前高田市）

八位 167番 32点 ごはんだよ今は私が母に言う忘れてもいい居るだけでいい

長澤周子（盛岡市）